

ホップ♪ステップ♪のとがわ

一般社団法人能登川地区まちづくり協議会
平成29年度「自主防災活動リーダー研修会」

日時： 平成29年6月17日(土) 9:30~11:30

会場： 能登川コミュニティセンター ホール

次第： ・ 講演：「自主防災組織の役割と行動」

「災害時の役割と具体的行動」

東近江市防災危機管理課



・ 事例発表：「自治会における防災活動」



「我が町の防災訓練」

山路町自治会

・ みんなで取り組もう

「200年防災のまちづくり」

安全・安心事業部



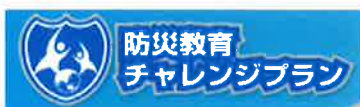
主催： 一般社団法人能登川地区まちづくり協議会

お問合せ：一般社団法人能登川地区まちづくり協議会 安全安心事業部

☎050-5802-2793(まち協事務所)担当：今井陸之助

090-2288-8663 (今井 携帯)

Email: notomatikyo.imai@e-omi.ne.jp



本事業は「防災教育チャレンジプラン」の助成を受けています

能登川地区まちづくり協議会 防災出前講座

自主防災組織の役割と行動について

平成29年6月17日
東近江市 総務部 防災危機管理課

◆ 本日の内容

自主防災組織の役割と行動について

- 1 想定される災害、事前対策、事後対策
- 2 避難準備情報等の名称変更について
- 3 避難行動要支援者について

自主防災活動の進め方

1 地域を知る

想定される災害
まちのつくり、強み・弱み
危険性

2 対策を考える

事前の準備、事後の対応策
(行動計画、資機材購入等)

3 検証する

訓練の実施

活動

防災出前講座
自主防災組織の結成
災害図上訓練(DIG)
一時集合場所の決定
防災マップの作成
防災資機材の購入
防災啓発
防災訓練の実施

東近江市で想定されている 主な災害

- 1 地震災害
- 2 風水害
- 3 土砂災害

東近江市 防災マップ

平成25年10月配布



ハザードマップとは・・・

普段は見えない災害を
地図上に浮き上がらせたもの

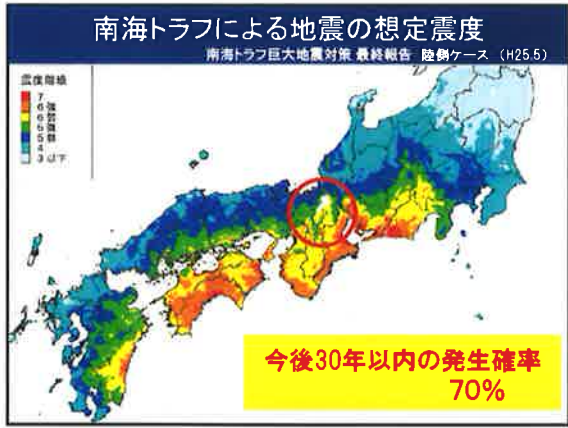
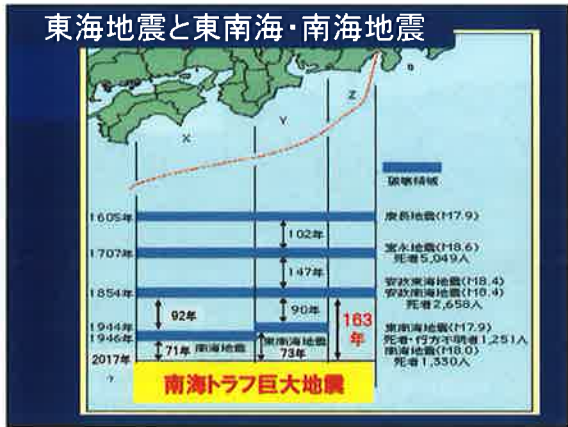
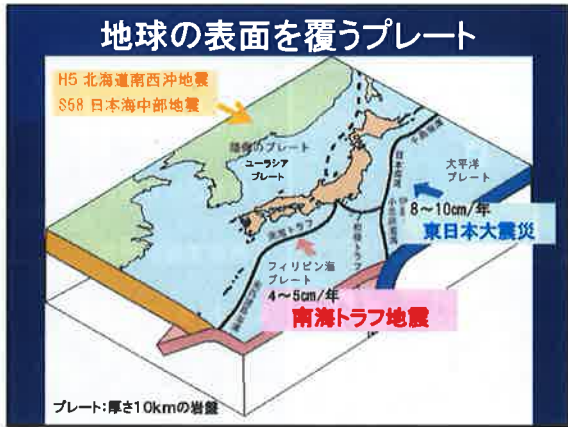
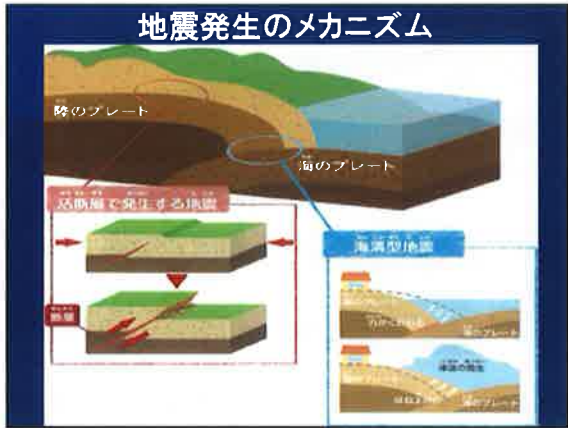


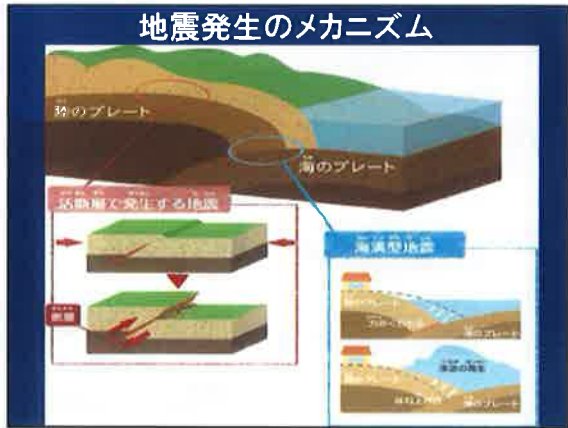
地震ハザードマップ

洪水ハザードマップ

東近江市で想定されている主な地震

- プレート境界で発生する地震(海溝型)
 - 南海トラフによる地震
- 活断層を震源とする地震(直下型)
 - 琵琶湖西岸断層帯の地震
 - 鈴鹿西縁断層帯の地震





活断層を震源とする地震(直下型)

- 琵琶湖西岸断層帯
- 鈴鹿西縁断層帯
- 鈴鹿東縁断層帯
- 養老・桑名・四日市断層帯

16



今後30年以内の地震発生確率

鈴鹿西縁断層帯による地震

→ 0.08~0.2% Aランク(やや高い)

琵琶湖西岸断層帯による地震

→ 0%~3% Sランク(高い)

熊本地震(本震)は...

地震を引き起こした断層帯 布田川断層帯
 地震発生直前の30年確率 ほぼ0~0.9% Aランク(やや高い)
 地震の規模 マグニチュード7.3

能登川地区で想定されている震度

南海トラフによる地震 震度5強~6弱

鈴鹿西縁断層帯による地震 震度5強~6弱

琵琶湖西岸断層帯による地震 震度5強~6弱

阪神・淡路大震災 H7.1.17 22年前



- 震度 5強
- 物につかまらないと歩くことが難しい。
 - 棚にある食器類や本は落ちるものが増える。
 - 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



震度

6弱

- 立っていることが困難になる。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

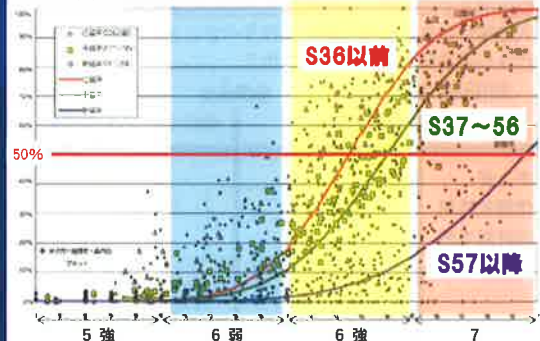


耐震性が低い



耐震性が高い

木造建築物の全壊率テーブル

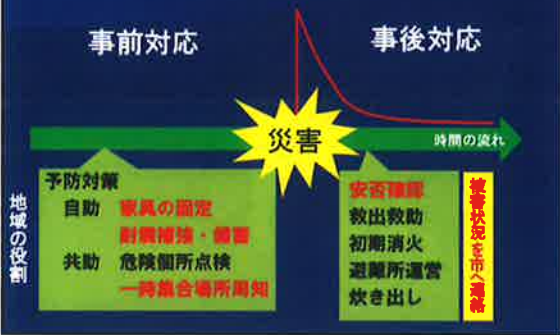


前掲「建築物の耐震性向上のための調査」(国土交通省)と「国土交通省の調査結果に基づく地震被害の軽減に関する調査報告書」(国土交通省)を基に作成された。なお、本表はあくまで目安であり、実際の被害状況は、各地域における状況や、建築物の耐震性向上の有無によって異なる。内閣府「東南海・東海地震の被害調査に関する調査報告書」(国土交通省)を参照。

東日本大震災の映像



地震災害

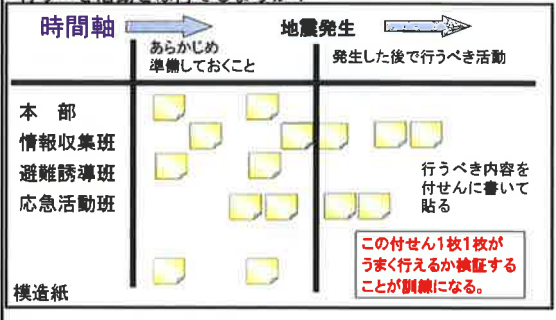


地震災害

- 事前対策**
 - 自治会で家具固定の啓発(寝室の安全確保)
 - 火災予防の啓発(地震後の通電火災等)
 - 安否確認方法の周知
 - 必要な資機材の検討
- 事後対策**
 - 発災時間の想定(夜間、昼間、休日等)
 - 行方不明者、けが人対応
 - 火災発生対応
 - 要配慮者、避難行動要支援者への対応

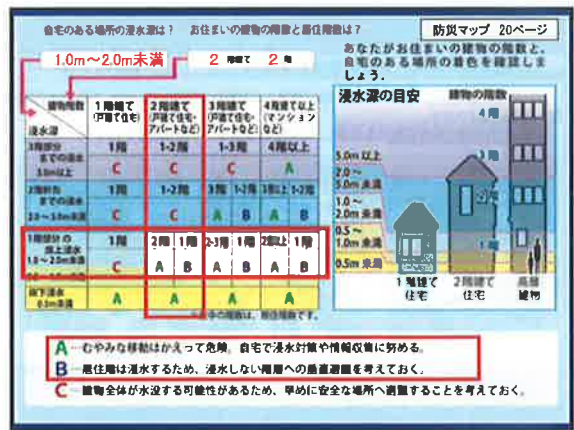
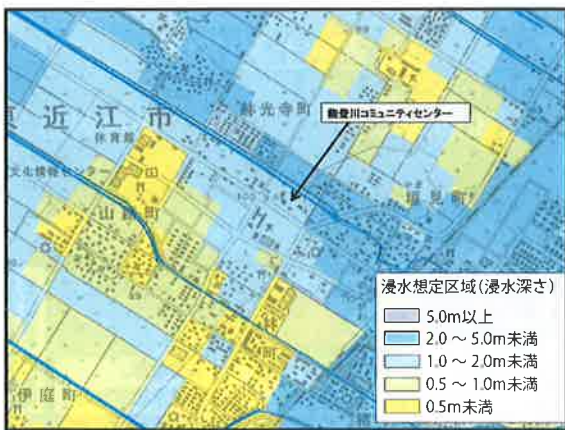
時間を意識した組織の対応整理(地震)

大地震が発生する前に地域で行うべきこと、発生した後に
行うべき活動とは何でしょうか？



東近江市で想定されている 主な災害

- 1 地震災害
- 2 風水害
- 3 土砂災害





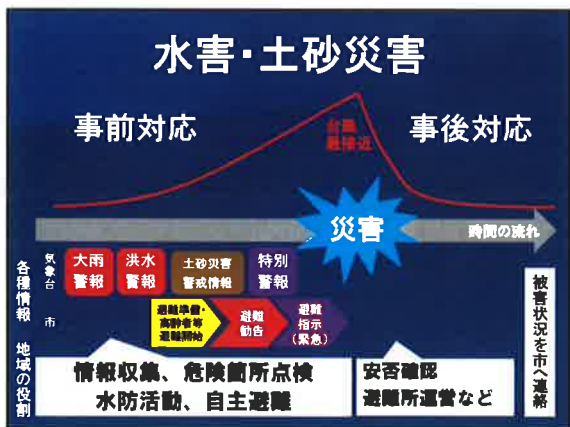
土砂災害に関する避難勧告等の発令対象地区（能登川地区）

神郷町	長勝寺町
きぬがさ町	伊庭町
南須田町	能登川町
北須田町	佐生町
佐野町	猪子町

土砂災害警戒情報と土砂災害の前兆現象 防災マップ 44ページ

土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生危険性が高まったとき、気象台と滋賀県から共同発表されます。
また、**土砂災害の前兆現象**にも注意し、危険を感じたらすぐに避難しましょう。

かけ崩れの前兆現象	土石流の前兆現象	地すべりの前兆現象
<ul style="list-style-type: none"> ひび割れが入る 小石が落ちる 音が聞かれる 濁りが増える 	<ul style="list-style-type: none"> 音がザワザワと響く 山崩れがする 濁水が出る 	<ul style="list-style-type: none"> ひび割れ、はげがでる 水が噴き出す 濁りにひび割れ



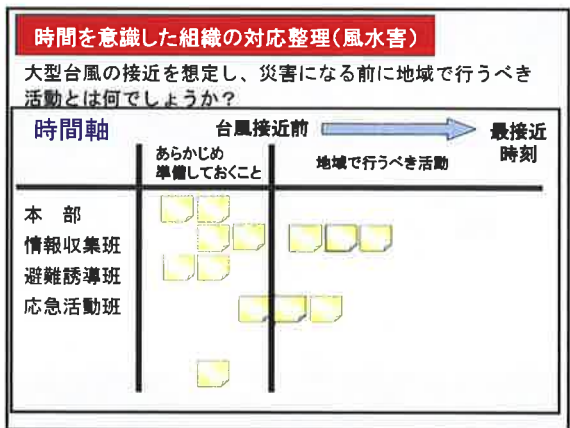
水害・土砂災害

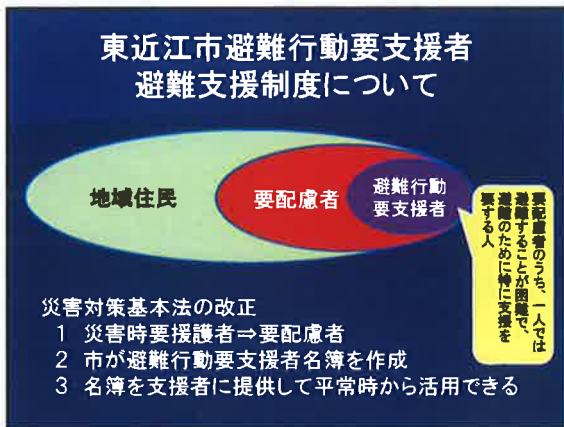
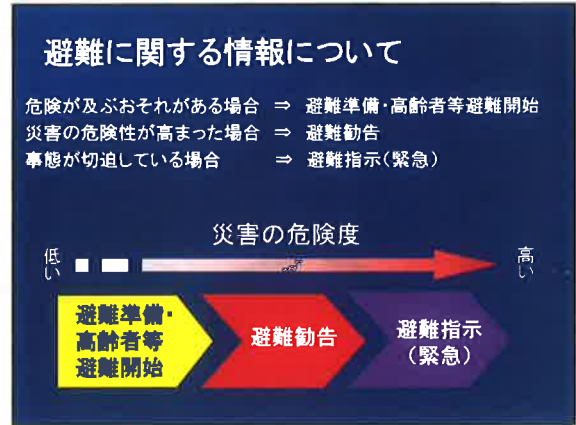
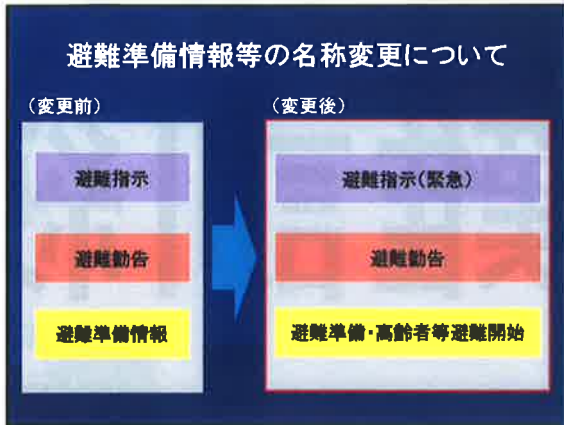
1 事前対策

- 危険箇所点検、整備(清掃等)
- 自治会内連絡体制、情報収集体制の整備
- 避難のタイミング、避難場所、避難ルート
- 発災時間の想定(夜間、昼間、休日等)
- 防災マップの作成
- 必要な資機材の検討と準備

2 事後対策

- 要配慮者、避難行動要支援者への対応
- 冠水時の対応





- ### 要支援者へのサポート
- 1 どのような災害、どのような危険性があるのか
ハザードマップの活用
 - 2 要支援者の把握
顔の見える体制づくり
 - 3 どのようなときにどのような支援が必要か
安否確認方法、避難誘導方法
 - 4 防災訓練
- 普段からのご近所づきあい

取り組み事例

永源寺地区上二俣町

- 1 各組での対応
上二俣町では普段から各組での活動が基本となっており、安否確認も各組で行うこととしている。
避難行動要支援者への対応についても各組で対応。
- 2 避難行動要支援者の把握と避難方法
一時集合場所に自力で来られない人の数と、その人を避難させるのに必要な人数を各組で確認しておく。
組で対応が難しい場合は、自治会に支援を要請。

我がまちの 防災避難訓練

山路町自治会



山路町の紹介

- 山路町には、能登川中学校、図書館、博物館、スポーツセンターがあり、能登川地区の中心にあります。
- 人口は1589人、世帯数は599戸(戸建てが370戸)高齢化率は17.0%で林町に次いで2番目に低い地域です。(平成29年3月現在)
- 防災訓練は平成22年度より開催。今年度開催で8回目です。
- 自主防災組織は平成25年度よりスタート。
- 私は平成25年度より自主防災会会長代行として、今年で5年目になります。



山路町自治会「自主防災避難訓練」開催実績

回	年度	実施日と参加人数	自治会長	福祉人権部長	集合場所	対象	内容
1	H22	1/16 40人	河崎正一	里田明	図書館駐車場、 体育館へ移動	組長、ふれ 愛 ネット ワーク幹事 会団体まで	消火訓練、簡易担架、 啓発指導
2	H23	1/15 40人	北崎富三	櫛田善之	スポーツセン ター体育館、 図書館駐車場 へ移動	組長、ふれ 愛 ネット ワーク幹事 会団体まで	安否確認、 水消火器で消火訓練、 応急救護訓練
3	H24	1/13 120人	杉田康雄	杉浦隆支	図書館駐車場	全員	安否確認、 水消火器で消火訓練、
4	H25	12/8 130人	出路正秋	西邦和	スポーツセン ター体育館	全員	応急処置、 簡易担架づくり
5	H26	12/7 150人	小南繁一	若林常克	中学校体育館	全員	応急処置、 簡易担架づくり
6	H27	11/8 230人	櫛田善春	小南治次	中学校体育館	全員	各家庭での自主訓練、 安否・被災報告(組長)、 避難時課題対応 避難場所で防災学習
7	H28	11/6 120人	小南久男	山本卓治	一次避難場所 ⇒自治会館	全員⇒ 5名程度/組	各家庭での自主訓練、 安否・被災報告(組長)、 避難時課題対応 避難場所で防災学習 かまどベンチを利用 した炊き出し訓練

平成28年10月15日

山路町自治会会員の皆様へ

山路町自主防災組織会長（自治会長）	小南 久男
山路町自主防災会会長代行	河崎 正一
山路町自治会福祉人権部長	山本 卓司

平成28年度 山路町自主防災避難訓練（第7回）の実施について

災害による被害を軽減するためには、自分の命は自分で守る「自助」を基本に、地域の安全を地域で守る「共助」、行政が防災体制として取り組む「公助」により防災・減災に取り組むことが必要です。山路町では、平成22年度から毎年防災避難訓練を実施していますが、この間、東日本大震災をはじめ、各地で地震、風水害による大きな災害が発生しています。今年の4月には震度7を記録した熊本地震が発生し、大規模な被害をもたらしたことは記憶に新しいかと思えます。

このような状況を踏まえて、今年度も「山路町自主防災組織」による標記訓練を実施することとしました。昨年につづき、各家庭での自主訓練の実施後、近隣の声掛けを行い避難するという内容で訓練を実施します。つきましては、下記により、各家庭において家族全員で自主訓練を行っていた いただいた上で、各世帯1名以上による1次集合場所への避難訓練に参加いただきますようお願いいたします。また、今回は指定避難場所である能登川中学校体育館への避難が道路等の被害状況から不可能となったという想定のもと山路町自治会館を臨時避難所と位置付け避難していただきます。こちらにつきましては、各組5名程度（各組の組長により選出お願いします）の参加をお願いします。その他の組員は1次集合場所での安否確認完了後、組長の指示に従って解散してください。

記

1. 実施日時 11月6日（日） 午前8時～10時30分頃
当日は、午前8時00分に震度6の地震が発生したと想定して、「山路町自主防災会連絡網」により(自治会長→班長評議員→組長→住民)連絡をいれます。
【各組長は、組内の連絡を短時間で済ませられるよう、あらかじめ組内を複数者で連絡を取れる体制の準備をお願いします。】
※今回は、地震による避難所の被害状況や道路被害状況等から山路町自治会館を臨時避難場所 兼 自主防災組織本部と位置付けて訓練を行います。
2. 集合場所 各組所定の一時集合場所
集合後、各組5名程度は臨時避難場所（山路町自治会館）へ組、グループ単位で避難します。
それ以外の方は、一時集合場所で組長が安否確認後、解散とします。
3. 参加者 自主防災組織構成員および各世帯1名以上
【各家庭で実施する自主訓練には、在宅の家族全員で参加願います】

4. 持参物 非常持出袋（お持ちの方）

5. 訓練内容（①から順に行ってください）

8:00 地震発生想定（連絡網で各戸へ連絡が入る）

組長 各世帯へ連絡をする

- ① 各家庭で自主訓練を実施
- ② 近所（3軒）に声掛けを行い安否の確認をして下さい
- ③ 一時集合場所へ避難して下さい

8:30 安否・被災報告（状況把握）、課題開封・対応検討（一時集合場所で）

- ④ 組長に安否、被災状況を報告してください。
自治会館へ避難する対象の参加者は一緒に課題への対応を検討して下さい。
それ以外の方は、ここで解散となります。

組長 各世帯の安否や被災の状況を掌握するとともに、被災状況等を記した課題を開封し、自治会館へ避難する対象の参加者で対応を検討して下さい。

（安否確認、対応検討後）

- ⑤ 避難場所（山路町自治会館）へ移動

8:50 報告訓練（山路町自治会館で）

組長 自主防災組織本部に状況報告する
会場には、非常持出袋、非常食を展示

9:00 かまどベンチによる炊き出し訓練（山路町自治会館前で） ← 一般参加者

かまどベンチでの炊き出し訓練の実施
炊き出し班による炊き出し ⇒ 参加者によるおにぎり作り体験

9:00 防災学習（山路町自治会館内で） ← 役員（組長および評議員含む）

挨拶

防災学習会の実施

- ・自主防災会会長代行 河崎 正一様
- ・おにぎり委員会 岩佐 卓實様

※終了後、炊き出し訓練、おにぎり作りに参加いただきます。

10:30（目途） 終了

6. その他注意事項

・当日、どうしても参加が困難な場合は、あらかじめ組長に連絡をお願いします。

以 上

各家庭での自主訓練実施要領

(1) 目的

身の安全の確保、出火防止、初期消火など、地震発生直後に行う行動を習得する。

(2) 訓練内容

チェック欄

ア 大きな揺れを感じた時(地震発生時:0分～1分)

- ・落ちついて、テーブルや机の下などで身を守る。
- ・ドアを開け、避難路を確保する。
- ・地震の揺れを感じたらすぐに火を消す。ただし、揺れが大きな場合は、無理をせず揺れがおさまってから火を消す。

イ 揺れが収まった時(1分～5分)

- ・火元を確認し、ガスの元栓を閉め、電気スイッチとブレーカーを切る。
- ・家族の安否を確認する。
- ・携帯ラジオなどで情報収集する。
- ・火災が発生したら初期消火を行う。自分で消火できない場合は、大きな声で、近所に応援を要請する。

ウ 避難開始(5分～10分)

- ・家屋の倒壊の恐れがある場合や避難勧告が発令された場合は、非常時持ち出し品を確認し、隣近所で声を掛け合って、一時避難場所へ避難する。要援護者の方に対しては、特に配慮する。
- ・安否状況、家屋の倒壊、道路の陥没など、避難中に収集した情報を情報班に伝える。

(3) 非常時持出品(例)

- 非常持出袋(非常食、飲料水、ラジオ、懐中電灯、ろうそく、ヘルメット、ライター・マッチ、ナイフ・缶切り、ティッシュ、タオル、ビニール袋、衣類、軍手、救急医療品、常備薬、貴重品、現金、保険証のコピー など)

(4) タイムスケジュール(所要時間:15分)

時間	内容	担当
5分	マニュアルの確認	各自
10分	訓練	各自

ノ カバーに身を隠す



ノ 避難経路の確保



イ ガスの元栓を閉める



イ ブレーカーを切る



イ 地震ラジオで情報収集

ウ 非常時持ち出しの確認



ウ 非常時持出袋

ウ 隣へ、声をかけて避難



回覧

私たちの地域は私たちの手で守ろう

自主防災・避難訓練のお知らせ

山路町自主防災組織・山路町自治会

近日中に各家庭に配布します実施要領に基づき訓練への参加をお願いします。

日時：平成28年11月6日（日）8：00～10：30（予定）

場所：各組一時集合場所 → 山路町自治会館（臨時避難所）
（各組5名程度）

内容：午前8時00分に震度6の地震が発生（想定）

↓
自治会長から「山路町自主防災会緊急連絡網」により
班長評議員 → 各組長 → 各世帯に連絡

↓
各家庭で自主訓練を実施

↓
近所に声掛け（3軒）

↓
一時集合場所に集合（各組単位で組員の安否確認）

↓
組長含め各組5名程度
および評議員
（班長評議員、特別評議員含む）

↓
左記以外の組員

↓
山路町自治会館へ避難

・各組長→本部へ安否確認

結果の報告

・防災学習会（自主防災会会長代行、おにぎり委員会）

・かまどベンチを活用した炊き出し訓練

↓
解 散

一時集合場所にて解散

参加対象者：山路町自治会加入世帯（1世帯1名以上）

当日参加が困難な方は組長さんに連絡してください。

※各組5名程度は山路町自治会館への避難をお願いします。

持 参 品：非常用持ち出し袋（お持ちの方）

今回の自主防災避難訓練の目的

大規模な地震・風水害・火災等に備えての自助と共助の取り組みを進めるため、家庭で行う自主訓練と「山路町自主防災会緊急連絡網」を利用した避難場所への避難訓練および防災学習会を行います。また、今夏に新設した「かまどベンチ」を活用した炊き出し訓練を行います。今後、発生が予想されている大規模地震や風水害に備えるため、地域での防災意識向上と自治会自主防災組織の体制強化につなげます。

平成28年10月15日

山路町各組組長 様

山路町自治会長 小南 久男
福祉人権部長 山本 卓司

平成28年度 山路町自主防災避難訓練について（依頼）

貴職におかれましては、益々ご清祥のことと存じます。

日頃は、山路町自治会運営に関しまして格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、今年度の自主防災避難訓練の実施日が迫ってまいりましたので、貴職におかれましては何かとご多用のこととは存じますが、各戸への通知文の配布など下記事項について対応方よろしくお願ひ申し上げます。

記

（お願ひする事項）

- 1 各戸への実施に関する通知文の配布と訓練内容の周知をお願いいたします。
今回は、昨年同様に添付の「各家庭での自主訓練実施要領」による各家庭での訓練実施と近所（3軒）への声掛けによる安否の確認をお願いしておりますので、特に留意の上周知いただきますようお願いいたします。
- 2 訓練当日や今後の災害発生時の連絡として、短時間で各戸へ連絡できるよう、事前に連絡網の整備をお願いいたします。
- 3 一時集合場所では、組員から各戸および近隣の方の安否や被災の状況について報告を受け、記録して下さい。（後ほど、自主防災組織本部へ報告していただくこととなります。）
安否確認、被災状況の確認が終わりましたら、山路町自治会館へ避難する組員以外はその場で解散を指示してください。
- 4 あらかじめ課題を封印してお渡ししますので、当日は一次集合場所で開封し、その課題に対する対応方法について組員と相談の上、決定しそれを実行して下さい。
（山路町自治会館へ避難する組員のみ）
- 5 避難所に到着したら、自主防災組織本部へ組員の避難者数、安否や被災の状況を報告して下さい。
- 6 山路町自治会館では、組長および評議員は防災学習会に参加後、炊き出し訓練に参加して下さい。その他の組員は、炊き出し訓練のみの参加で結構です。
※避難訓練終了後にアンケートのご記入をお願いいたします。

以 上



組

災害時安否確認表

年 月 日

一次集合場所で安否確認を行い、自主防災組織本部に報告して下さい。

(今回は、山路町自治会館にて報告)

	氏名	家族人数	生存者数		不在者数	不明者数	備考
			健全	負傷			
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							

健全：怪我等手当の必要がない方

負傷：手当が必要な方

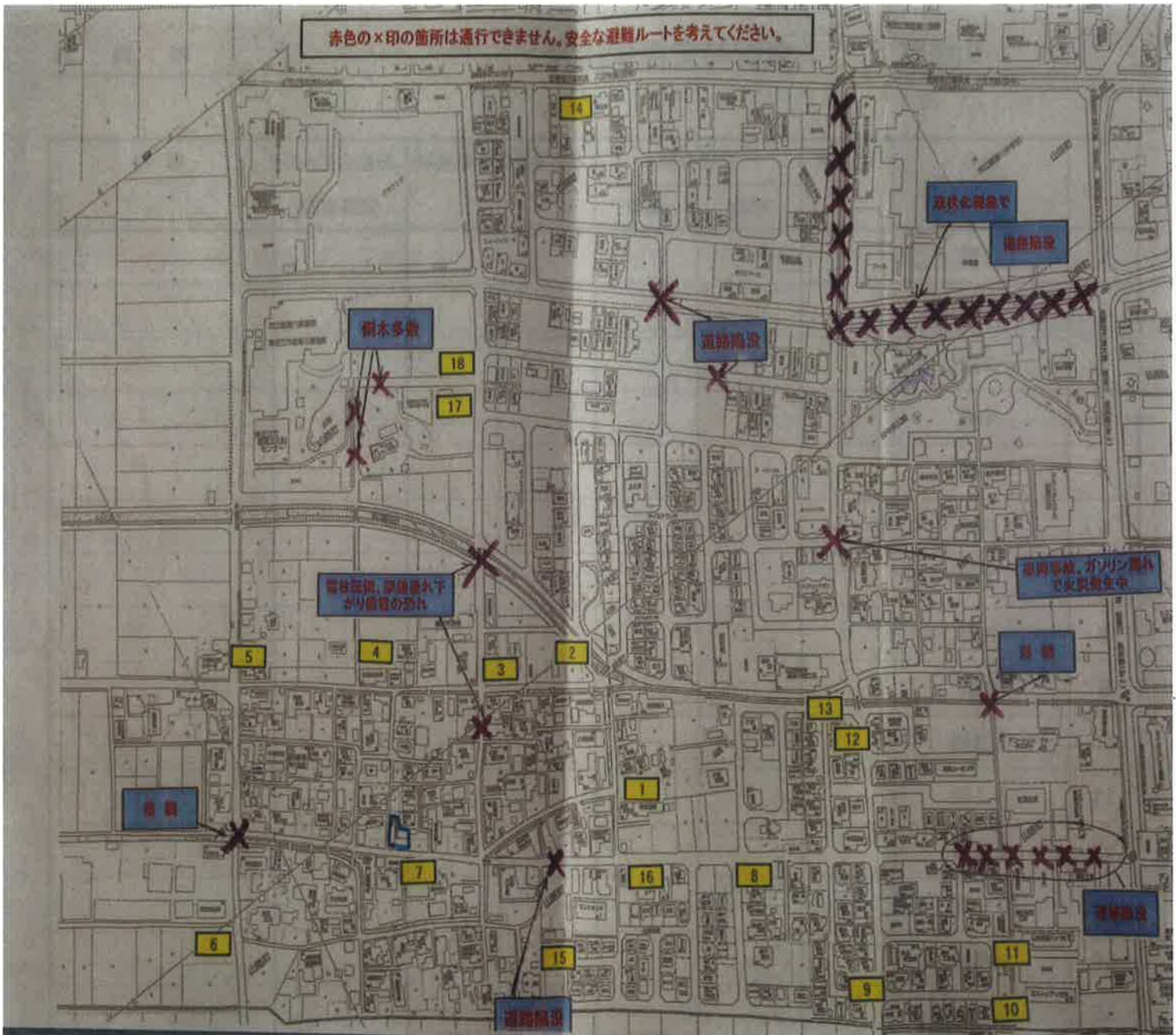
不在者：外出等で家にいないことが明確な方

不明者：生存が分からない方

※役員等で一次集合場所に集合しない方については、不在者としてカウントしてください。

※自主防災訓練に参加されていない家庭の欄については、空欄のままで結構です。

赤色の×印の箇所は通行できません。安全な避難ルートを考えてください。



	組名	組人数	生存者数		不在者数	不明者数	自治会館への 避難者数	備 考
			健全	負傷				
1	1組							
2	2組							
3	3組							
4	4組							
5	5組							
6	6組							
7	7組							
8	8組							
9	9組							
10	10組							
11	11組							
12	12組							
13	13組							
14	14組							
15	15組							
16	16組							
17	17組							
18	18組							

健全：怪我等手当の必要がない方
 負傷：手当が必要な方
 不在者：外出等で家にいないことが明確な方
 不明者：生存が分からない方

※役員等で一次集合場所に集合しない方については、不在者としてカウントしてください。
 ※自主防災訓練に参加されていない家庭の欄については、空欄のままで結構です。





～包装食袋を使った炊き出し（ハイゼックス）の作り方～

〈特徴!〉

災害時に最小限の材料で炊き出しできる。

保存期間が長い。

持ち運びに便利で、どこでも食べられる。

食器や箸が不要。

〈Point!〉

酢を混ぜるなどの工夫で多少の保存が可能です。また袋を下から絞り上げご飯を押し出すことで、災害時などで手が汚れてしまった状況でも、食べることが可能です。

〈ハイゼックスは!〉

強化ポリエチレンでできています。

沸騰したお湯の中でも有害物質を出しません。

焼却炉で燃やしても安全ですが、使用後の袋は、地域のゴミ分別の決まりに従って処分してください。

災害救援用

包装食

（材質：ハイゼックス）

1. 洗米を入れ、同量の水を入れる。
2. 袋の中に空気が残らぬようにして、輪ゴムで2重に口を固くしめる。
3. 沸騰した湯の中に入れ、約30分間煮る。

米1合と水

米1合

米半合と水

米半合

+ 日本赤十字社
長野県支部

① 釜にたっぷりのお湯を沸騰させ準備しておく。

② 袋の目盛りを目安に、必要に応じて半合（9000）から一合（18000）の洗米を入れ、米と同じ量の水を入れる。…**1**

〈Point!〉

好みに応じて調味料（梅干・塩・炊き込みご飯の素など）を入れることもできます。あらかじめしょう油味ベースの水を用意し、味付けするのもよいでしょう。…**2**

無洗米を使う場合は、水の量を2~3割ほど増量するとふっくらできあがります。

③ 袋の中の空気を十分に抜き、袋の口（上部）を輪ゴムでしっかりとめて密封する。…**3**

〈Point!〉

空気が入っていると膨張して破れたり、浮いてしまいご飯が生煮えになる場合があります。空気の抜き方のコツです。

ハイゼックスの封をする辺り（上の口から下に5cm位の部分）を指で束ねて小さくつまみながら、もう片方の手で袋の中の水圏を下から押し上げ、水圏が指でつまんだ部分までくれば、空気が外へ逃げている状態です。

④ 沸騰しているお湯の中に袋を釜の縁から滑らすように入れる。…**4**

〈Point!〉

投げ込むとハネがとび、周りの人がヤケドをする危険があるので注意しましょう。

⑤ 約30分~45分間煮沸すれば完成です。



熱々のハイゼックスを引き上げると、できあがり⇒



まいつき 毎月17日は



ぼうさい 防災おにぎりデー

みんなで 食べよう! 語ろう! 引き継ごう!



阪神淡路大震災の起こった17日を忘れないように
防災の大切さと、食への感謝のために
おにぎりを食べる1日にしましょう。



おうちの方へ

私たちは阪神淡路大震災で、人生最大の驚き、悲しみ、苦しみ、辛さ、淋しさに、これでもかと云うほど出会いました。しかし、その思いを若い世代や子どもたちにしっかりと伝えてきたでしょうか?

そこで、毎月17日には、地震の経験がある人もそうでない人も、おにぎりをほおばりながら、災害を語りあい、伝えあって、その時への備えを確かなものにしていきましょう。私たちは提案しています。ご賛同ください。

このとりにくみを
している人たち



主催

防災おにぎり委員会

協賛

協力

有限会社

テクノワーク

facebook

防災おにぎり

検索

一級建築士事務所



※終り後双出し列隊入



アンケート

11月6日（日）実施の自主防災避難訓練（第7回）について、下記の点についてお気づきのことをご記入ください。

良かった点

改善すべき点

今回の訓練についての感想・ご意見

ご協力ありがとうございます。11月13日（日）までに自治会館（ポスト）に投函ください。
改善すべき点につきましては、役員会等で報告させていただき、次年度に引き継ぎいたします。

平成 28 年度自主防災避難訓練アンケートの結果

問題点

- ◇ 狭い路地への避難経路の問題点（危険物が多い）
本来比較的安全な幹線道路への避難経路は問題点（車の通行が多い：電柱：電線が多い。）
もありますが、通行しやすい。
- ◇ かまどベンチの炊き出し訓練と防災学習のタイムスケジュールが悪かったので、予定を
変更して、告知案内していたが十分に伝わっていなかった。
- ◇ 組内の緊急連絡網（電話：直接訪問確認）の不徹底、及び高齢者夫婦：一人暮らし等々の
方々が災害に対して無関心さがあると思われる。（在宅でも参加しない）
- ◇ 全員避難所迄の参加が良い。
- ◇ 救助の道具が必要ですね？（家屋が崩壊した時の対応課題）
- ◇ 非常持ち出し品について、（飲料、食料品の他）具体的に何を準備すればよいのか教えてい
ただければありがたいです。

良かった点

- ◇ 防災意識が高まった。
- ◇ 防災学習で過去の災害、今後発生するだろう地震について、又自分自身が何をすべきか？
がわかったのが良い。（自助：共助）
- ◇ 各組の緊急連絡網の整備ができた。
- ◇ かまどベンチを使っての炊き出し訓練ができた。
- ◇ 避難経路を考えて移動するように設定されていたところが良かった。
 - ◇ 防災について具体的に分かりやすかった。
- ◇ このような立派な防災教育とは知らなかったので、今後も参加したいと思います。

ホップステップのとながわ

能登川地区における 自主防災活動の進め方

一般社団法人能登川地区まちづくり協議会
安全・安心事業部



防災活動の目的

人命救助最優先

災害時に住民の命を守れる
安全で安心なまちにする

- ・ 自然災害時に人災で命を失うことのないまち
- ・ 災害時には、すべての機材・人財を総動員して個々の能力を最大限に発揮できるまち

一般社団法人能登川地区まちづくり協議会安全・安心事業部



これまでの活動経過

- ・ 自主防災活動リーダー研修会開催
平成22年度～平成24年度の3年間は、4日間開催
(赤い羽根共同募金助成金活用)
平成25年度からは、1日開催
(平成25年9月:防災担当大臣賞受賞)
- ・ 「e防災マップづくり」開始
平成27年度「第6回e防災マップコンテスト」参加
(平成28年3月:特別奨励賞受賞)
平成28年度「地域防災実践ネット」参加
平成29年度「防災教育チャレンジプラン」参加



自主防災組織(自警団対応含む)がある自治会(46/53)
(組織率 86.8%) 平成29年5月アンケート



自主防災活動状況



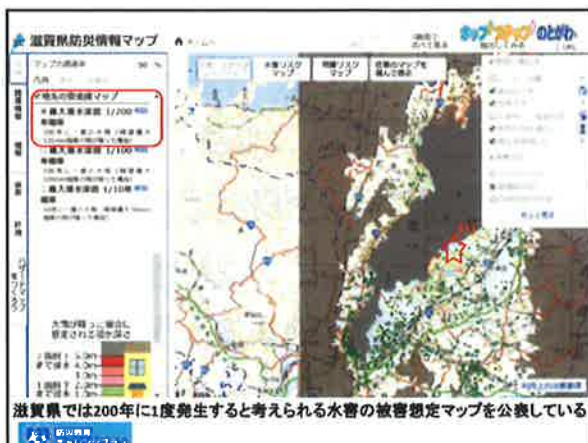
自治会での防災活動		自治会数
一時集会所設置済	40	
防災訓練実施	37	
防災知識啓発	29	
自治会内巡視	24	

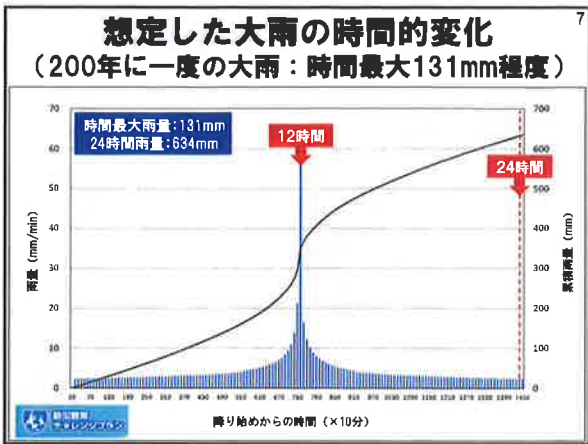
防災機材の保有状況

機材名	自治会数
ハンドマイク	40
消火器・消火用バケツ	37
ヘルメット・防火衣等	33
可搬式ポンプ	27
テント・担架等	21
土のう袋・かけや等	18
ジャッキ・バール等	15
救急用具	8



平成29年5月東近江市防災組織管理関係へ





200年に一度の大雨が降った場合：降り始めから6時間



200年に一度の大雨が降った場合：降り始めから7時間



200年に一度の大雨が降った場合：降り始めから8時間



200年に一度の大雨が降った場合：降り始めから9時間

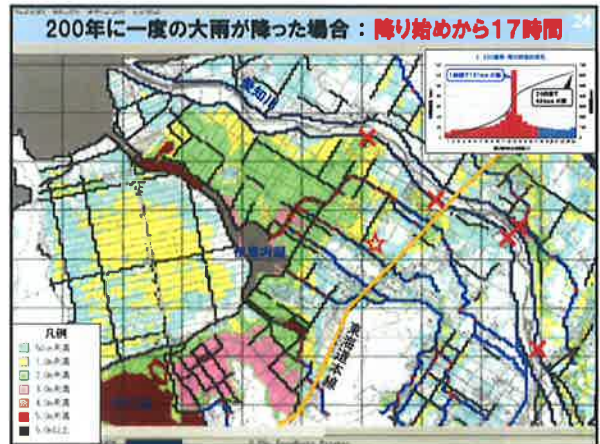
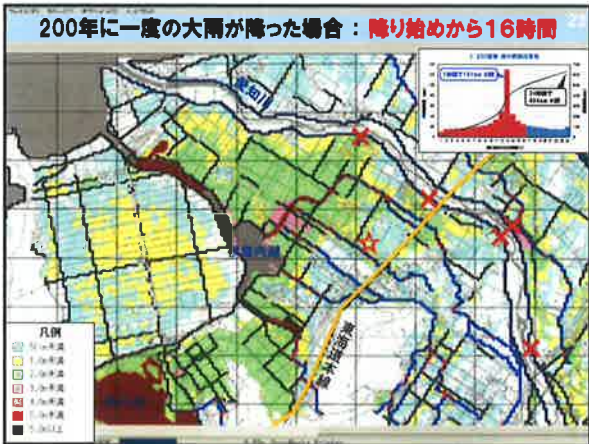
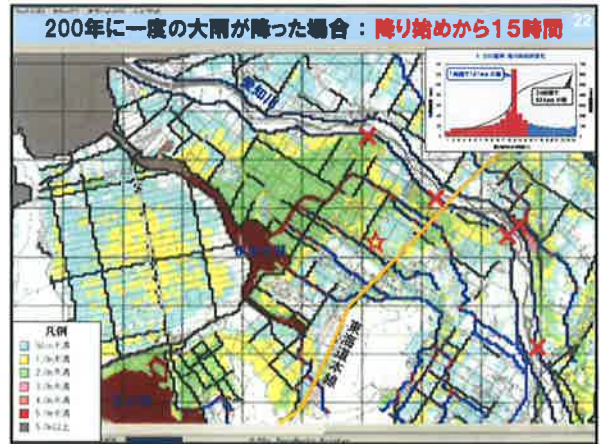
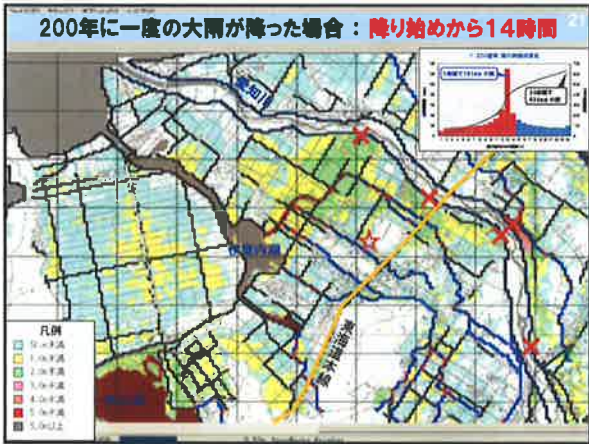
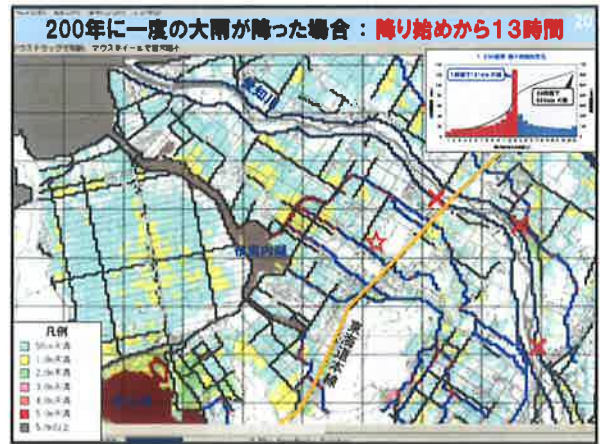


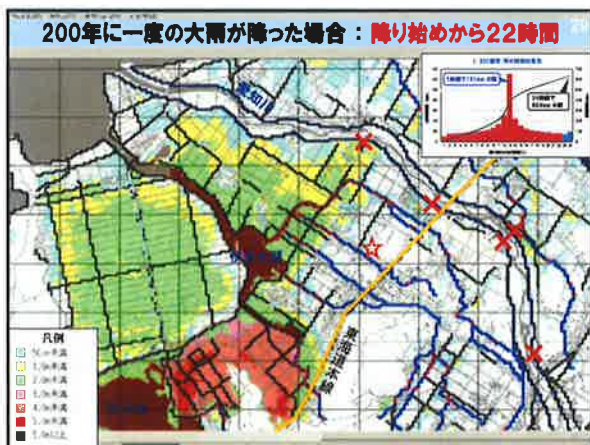
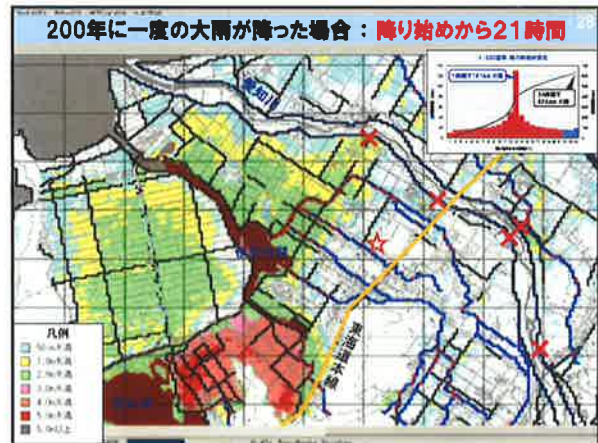
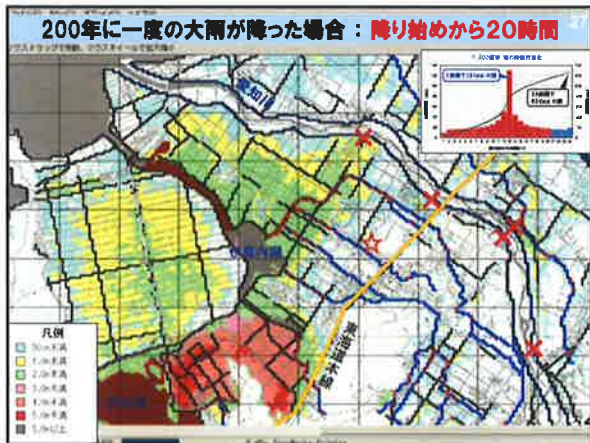
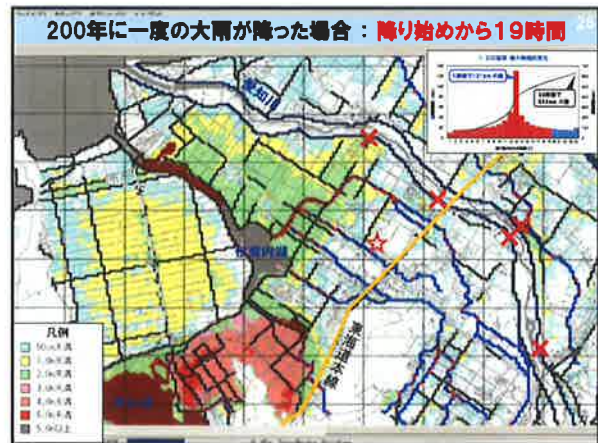
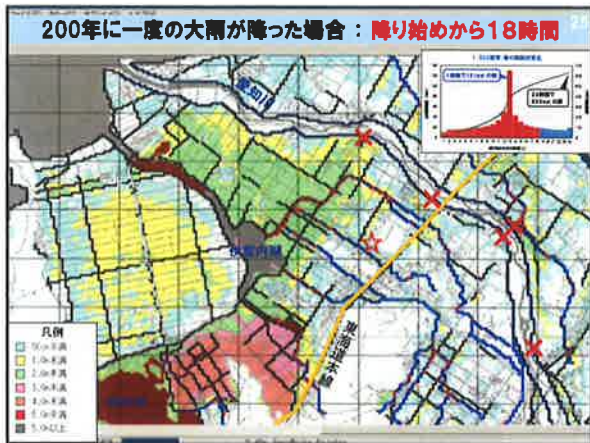
200年に一度の大雨が降った場合：降り始めから10時間

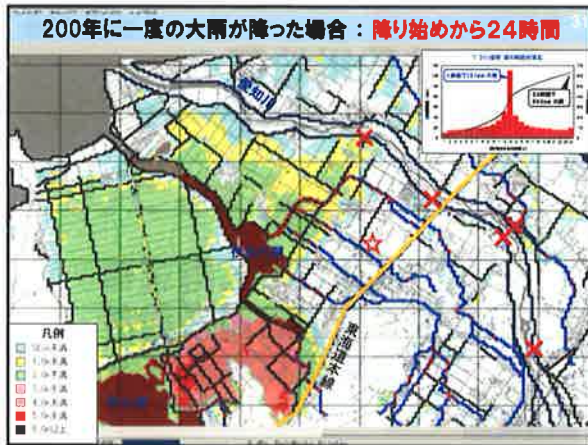


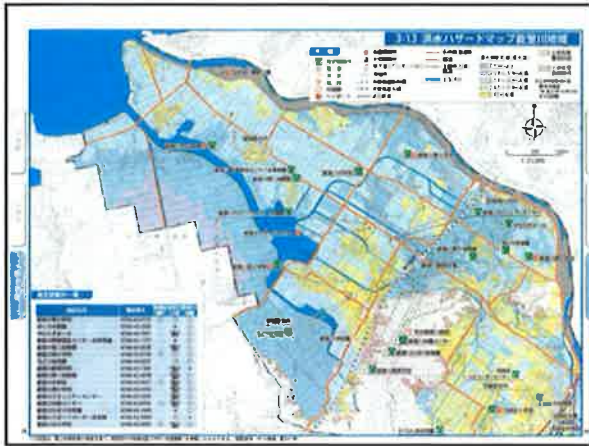
200年に一度の大雨が降った場合：降り始めから11時間











能登川地区の 自主防災活動テーマ

200年防災のまちづくり

200年に1度の大雨災害
に必要な自主防災活動が
できる地区になる。

災害時に必要な行動

1. 安否確認

2. 救出・救助
3. 避難
4. 復旧・復興

今年(2017)の目標

- ①自治会ごとの
安否確認体制づくり
- ②すべての自治会で
安否確認訓練

次年度以降

2017 スケジュール

- ・ 自主防災活動リーダー研修会 開催 6月17日(本日)
 - 「200年防災のまちづくり」
 - ◆初年度は全住民の安否確認
 - ◆自治会単位の安否確認体制の確立
- ・ 自治会アンケート(本日シート配布) 6月~9月
 - 自治会ごとの安否確認方法と防災活動の課題を聞く
- ・ 共通課題対策の実践 9月~10月
 - 全自治会で安否確認訓練を実施
- ・ 活動成果の検討 11月~12月
 - 自治会ごとの安否確認訓練の成果検討会

今後の予定

- ・ E防災マップ講習会 7月から9月(金曜の夜)
 - 7/21,8/18,9/15
 - 金曜日 午後7:30~9:30
- ・ 自主防災活動相談会 6月から3月(土曜の朝)
 - 6/24,7/22,8/19,9/16,10/14,11/25,12/9
 - H30年1/20,2/07,3/17
 - 土曜日 午前9:00~10:00
 - 事前予約制 まち協事務局へ事前に予約を
 - 上記以外の日時でもできる限り相談に応じます。
 - 出前講座も受けます。

能登川地区の 安否確認訓練

一般社団法人能登川地区まちづくり協議会
安全・安心事業部

安否確認訓練の目的

災害発生時に住民の安否を確認し
救助が必要な人や被災箇所を把握し
適切な救出・救助・避難が出来るよう
日頃から繰り返し訓練しておくもの。

訓練を進めるにあたっての 3つのポイント

1. 目的達成効果が高いこと
2. 判断基準が単純・容易で、誰もが間違いなく行動できること
3. 住民の負担感が軽いこと

(例) タオルで安否確認

全員参加の安否確認訓練に協力を！

「参加する」と言っても訓練がはじまったら
「我が家は無事です!!」という合図として
「玄関先にタオルを掲げる」だけです。



タオル掲出の一例

【安否確認訓練イメージ】

開始：「大規模地震発生!!」

- ・各世帯で自宅安全確保
- ・タオルを玄関口に掲げる

10分後：安否確認

- ・組長さんがタオルの確認に町内を回り
- ・対策本部(一時集合場所)へ報告する
- ・タオルの出していない家庭を再確認

30分後：報告

- ・自治会長が地区本部へ報告

安否確認の実施方法と予定日を！

(シートに記入してファックスでまち協に教えてください)

- ① 第1回能登川地区防災訓練(安否確認)に参加する。
 - ・タオル方式の安否確認を採用する。
 - ・自治会に合った方法で安否確認を行う。
(これまでも行っている方法など)
- ② 自治会の予定に合わせて安否確認訓練を実施する。
予定日： 月 日() (自治会に合った形)
- ③ 自治会のイベント開催時に安否確認訓練を織り込み実施する。
予定日： 月 日()
イベント名称：
- ④ 他の自治会の訓練を見学する。
見学自治会名と開催日は、まち協から後日連絡

訓練の準備

- ・自治会長は「自治会安否確認票」を準備する。
 - 組単位の戸数と総戸数を明記したもの
- ・組長は「〇〇組安否確認票」を準備する。
 - 自組の各戸の代表者名を明記したもの

※災害時に居るのは自治会員だけに限らない

- 両親や子ども・孫が来て居るかもしれない
- 外国からの来客があるかもしれない
- 自治会員の名簿確認だけでは済まない

組長確認用合計票（例）

安否確認票		〇〇自治会		〇〇組	
No	氏名	人数	安否	異常	状況
1	青木	3	○		
2	山田	2	○		
3	伊藤	1	○		
4	中村	2	○		
5	〇〇	4	○		
6	〇〇	2	○		
7	〇〇	3	×	1	〇〇さん負傷
8	〇〇	3	○		
9	〇〇	1	○		
10	〇〇	5			留守

自治会長確認用合計票（例）

組	総数		異常		状況
	戸数	人数	戸数	人数	
1組	18	27	1	1	女性負傷
2組	20	45			
3組	15	33			
4組	22	48	1	3	親子負傷
5組	19	30			
6組	26	55	3		留守宅3軒
7組	25	60			
8組	13	29			
9組	20	32			
10組	28	53			
合計	206	412	5	4	

安否確認が必要な時

- 震度5強以上の地震に襲われたとき
 - 1時間に50mm以上の大雨が降り、家屋内浸水や土砂災害に巻き込まれる可能性が予測されるとき・・・いつ避難する？
 - 暴風雨が接近し、自宅以外の安全な避難所への避難が必要と思われるとき・・・いつ避難する？
 - 上記2、3の被害が発生してしまったとき
- ※ 安否確認と同時に被災状況も確認する

避難が必要な時

- 大地震で自宅が被害を受け、家に居れなくなったとき
- 1時間に50mm以上の大雨が降り、家屋内浸水や土砂災害に巻き込まれる可能性が予測されるとき
避難準備・高齢者避難開始情報の発令を含む
- 暴風雨が接近し、自宅以外の安全な避難所への避難が必要と思われるとき
避難準備・高齢者避難開始情報の発令を含む
- 上記2、3の被害が発生してしまったとき
安否確認と同時に被災状況も確認する

訓練の具体的な手順

- 「訓練実施本部」から「地震発生、安否確認訓練開始」を発令する。
 - 音声端末機で「訓練開始」の放送を流す。
 - 合図の音を打ち鳴らす。 など
- 直ちに対策本部を立ち上げ、全住民の安否確認訓練を開始する。
 - 「訓練実施本部」を「災害対策本部」に移行させる。
 - 組長は担当の組を巡回し、門扉にタオルが掛けてあるか否かを確認し、タオルのかけてない家には訪問して安否を確認する。・・・終了後本部に報告する。
- 目標は「開始から30分以内に完了」させること。

各自の日頃の備え

- 「家具や機器が倒れてこない？」
- 「我が家の耐震度は？」
- 「非常時に何を持って出る？」
- 「家族同士の連絡方法は決めてある？」
- 「指定避難所は何処？」
- 「指定避難所まで、何分で行ける？」